

MAHO SATO

BIOGRAPHY

1999年大学が主催した美術研究旅行ではじめてイタリアを訪れる。イタリア人の美意識の高さ、日常生活の中でアートに触れる空間が存在していることに深く感銘を受ける。2000年横浜美術大学卒業。色彩が心に及ぼす影響に興味を持ち色彩学を学ぶ。東京にてインテリアデザイン会社、イベント制作会社での経験により空間演出の素晴らしさを体験する。その後コミュニケーションPRの仕事を得て、2008年自身のアートをさらに深めるためにイタリアへ渡欧。フィレンツェの工房にてガラスアートを学び、その後フィレンツェ国立美術学院へ入学し画家であり舞台演出家 Luzzi Enrico に会う。「今の感情を大画面に絵描け」という彼の指導により感情を色にして身体を大きく動かしながら絵を描きだす。2014年フィレンツェ国立美術学院 Interior Decoration 科卒業(学士) 及び 2019年 Design and Management of Artistic exhibits 科卒業(修士)。

突然の父親の死をきっかけに「自分自身のカラダ」に興味を抱く。Butoh Dance を学び 2015年振付家ダンサーVirgilio Sieni との出会いにより、彼が指揮をとる「身体表現アカデミー」にてパフォーマンスアート、インプロビゼーションなど身体と空間と踊りの関係性を自らの体験を通じて学び、美術館、劇場、修道院、広場など様々な場でパフォーマンスに参加し、絵画やオブジェの表現にとどまらず、自身のアートの境界線をさらに広げる。2018年ダンサーPio Campo と出会いダンスセラピー (Maria Fux method)を学び「自分の感情を踊りで表現」する研究をスタートする。2019年より Palazzo Strozzi 美術館 教育プロジェクト Corpo libero に参加。さまざまな展示作品を視覚を通じてだけでなくカラダで体感することを発見する。2021年日本文化に触れ美意識と心を鍛えたいという願いからフィレンツェにて茶道を再び学び始める。

2016年 SRISAGallery Firenze にて観客が1人ずつ参加する色のパフォーマンスを行う(キュレーター PietroGagliano)。
2020年 Chiasso Perduto Firenze にてアーティストインレジデンス&初の個展を行う(キュレーター Sandra M Pattin)。
2021年 PIA.Palazzina Indiano Arte Firenze にて自然と身体の共存をテーマとしてアーティストインレジデンス&個展 NATURACORPO を行う。2022年 PIA.Palazzina Indiano Arte Firenze にて昨年のアート研究をさらに深めるため2度目のアーティストインレジデンス&個展 NATURACORPO collective art experience を行う。その他複数グループ展、パフォーマンスに参加。日本、フランス、イタリアにてコレクターが作品を保持。

2020年夫 Gregorio Ceccarelli の美容院「METAMORFOSI」のアートディレクションをスタート。茶室からインスピレーションをうけながら色彩学をとり入れたアートが存在するメディテーションルームのような空間演出を行いお客様が心からリラックスし元気になれる空間を追求している。

www.metamorfosisgregorio.com